



279号  
2022/12

日中文化交流市民サークル'わんりい'  
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方  
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195  
<http://wanli-san.com/>  
Eメール:t\_taizan@yahoo.co.jp



ヤク肉売り場：四川省康定で早朝の散歩に出ました。街は明け方で未だ人気がありません。河沿いに進むと賑やかな一画があり、そこは朝市でした。野菜や果物を広げている露店が多くあり、別の一画には常設の食肉店が並んでいました。土地柄売っているのはヤクの肉でした。  
(四川省康定 2019年7月 撮影：佐々木健之)

‘わんりい’ 2022年12月号の目次は16ページにあります

日本語では、「犬の尾を貂の皮につぎ足す」というのだそうですが、私はこの言葉に出くわしたことはありません。

・>・>・>・>・>・>

晋朝を建国した皇帝司馬炎<sup>しばえん</sup>が亡くなって、王位を継承した司馬衷<sup>ちゅう</sup>は、政治のことを何も知りませんでした。それで、趙王・司馬倫<sup>りん</sup>は部下を率いて宮殿に攻め込み、実質的に権力を握っていた賈皇后<sup>かこうごう</sup>を処刑し、自らを宰相に任命しました。

司馬倫は、いつも朝廷の大臣たちを味方に引き入れ、自分の下男や使い走りにまでも高い役職を与え勢力を固めていき、数年後には自らが皇帝となりました。その時、皇帝および大臣の冠には貂の尻尾を飾りとして付けました。すると貂の尻尾は直ぐ品切れになりましたが、抜け目のない商人たちは密かに犬の尻尾を代わりに使ってごまかしました。これ以後、人々はこのことを引いて、朝廷をからかう言葉を作り出しました：貂が不足すれば、犬の尻尾が追いかける。

・>・>・>・>・>・>

**言葉の意味：**犬の尻尾を使って、貂の尻尾の代わりにする。上質なものの不足を補って、質の悪いものが出てくることを揶揄する言い方。

**使い方：**ここまでの文章は簡潔で申し分がない。この後の文はさらに磨きをかけないと、正しく、貂の皮に犬の尻尾を繫いだようになるものになる。

・>・>・>・>・>・>

この言葉、晋書趙王倫伝に出てきます。ご存知のように、晋朝は、魏の将軍で政治家司馬懿<sup>い</sup>が大権を握りながら、子供の司馬師<sup>し</sup>、司馬昭<sup>しょう</sup>と慎重に事を運んで、孫にあたる司馬炎が魏の皇帝に禅譲

を迫り、やっと建国したものでした。

司馬炎は晋朝の皇帝武帝として周囲の国々や各地の乱を制圧し、国内が混乱していた呉を攻めて滅ぼしました。司馬懿と戦った諸葛亮<sup>しょかつりやう</sup>が五丈原で病没してからの蜀は衰退に向かい、既に司馬昭によって滅ぼされていたので、呉の滅亡で、三国時代は終わりました。

長い時間をかけて準備して建国した晋朝ですが、司馬氏は一族で協調するということが出来なくて、兄弟が代わる代わる皇帝の座を狙い、外戚や皇后も交えて、激しい権力闘争を15年以上も繰り広げました。これを「八王の乱」と言います。

この闘争の間に、司馬倫は一度皇帝の座を篡奪しました。この時、自身の支持者を増やすために誰彼構わず官職を与えた結果、役人が被る冠につける貂の尻尾が足りなくなり、この言葉ができたのです。彼の場合は貂の尻尾が不足するだけで済みましたが、この

後の抗争では、それぞれの皇族が、戦力を異民族に依存したので、周辺の異民族の力が強くなり、西晋滅亡後に始まった「五胡十六国」という中華民族の苦難の時代を招いたのです。

「狗尾続貂」は、冠を作る人、被る人から言えば、「羊頭狗肉」と言ったところでしょうか。現在では立派な文章や書に下手な文章や書をつぎ足すことを指す言葉のようです。もともと立派な貂の毛皮に狗の尻尾を繫ぐなんて、文字通りの「龍頭蛇尾」ですね。そういえば、西晋は、礼に則って（ちょっと強引ですが）禅譲を受けますが、その後は身内で王権を争うなど、礼に悖る「龍頭蛇尾」を地で行く国家となり果てました。



挿絵：満柏画伯

# 辛棄疾の〈詞〉醜奴兒

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

辛棄疾（1140－1207）は女真族金王朝支配下に  
あった歴城（現山東省済南市）の漢人官吏の家庭  
に生まれました。成人して間もなく、王朝の混乱  
に乗じて兵を挙げ、手勢を率いて南宋に脱出、南  
宋王朝に仕えて、ひたすら領土奪還を目指しま  
すが、和平派の勢力に阻まれて実現できず、失意  
のうちに生涯を終えました。

以下は晩年の心境を伝えた作品の一つです。

## chǒu nú ér 〔丑奴兒〕

shū bó shān dào zhōng bì  
書 博 山 道 中 壁

xīn qì jí  
辛 棄 疾

shào nián bù shí chóu zī wèi  
少 年 不 識 愁 滋 味

ài shàng céng lóu  
愛 上 层 楼

ài shàng céng lóu  
愛 上 层 楼

wèi fù xīn cí qiǎng shuō chóu  
为 赋 新 词 强 说 愁

ér jīn shí jìn chóu zī wèi  
而 今 识 尽 愁 滋 味

yù shuō huán xiū  
欲 说 还 休

yù yuē hái xiū  
欲 说 还 休

què dào tiān liáng hǎo gè qiū  
却 道 天 凉 好 个 秋

- \* 丑奴兒 = 醜奴兒。詞牌名。
- \* 博山 = 地名。今の江西省広豊県西南。
- \* 滋味 = 味わい。実感。
- \* 层楼 = 高殿。楼閣。
- \* 而今 = いま。現在。
- \* 还 = また。
- \* 休 = 止む。やめる。
- \* 却 = 却って（逆接を表わす副詞）。
- \* 道 = 言う。
- \* 天凉好个秋 = 涼しくて素晴らしい秋だ。

〔訓読〕

## 〔醜奴兒〕

はくさん どうちゆう へき しんきし  
博 山 道 中 の 壁 に 書 す 辛 棄 疾

うれ じみ  
少 年 愁 い の 滋 味 を 識 ら ず

そうろう のぼ  
層 楼 に 上 る を 愛 す

層 楼 に 上 る を 愛 し

しんし ふ ため い  
新 詞 を 賦 さ ん が 為 に 強 い て 愁 い を 説 う

じこん じみ し  
而 今 愁 い の 滋 味 を 識 り 尽 し

い ま や  
説 わ ん と 欲 し て 還 た 休 む

い ま や  
説 わ ん と 欲 し て 還 た 休 め

かえ い てん よ  
却 っ て 道 う 天 涼 し く し て 好 き 秋 な り と

〔和訳〕

若者は、愁いの味もいさ知らず

うてな  
高き臺に駆け上る

うてな  
高き臺に駆け上り

し  
強いて愁いの歌を詠む

さても今、愁いの味を知りたれば

よ  
詠まんと欲して声を呑む

詠まんと欲して声を呑み

しゅうりょう  
秋涼の気や佳しと言う

若く血気盛んな頃は愁いの味も知らぬまま、楼閣に上って無理やり悲憤慷慨の詞を作ったものだが、現実に愁いの体験を重ねるにつれて、愁いの言葉も出てこなくなってしまう。素直に愁いの詞を作ろうとしてもなんだか空々しく気恥ずかしい。気づいてみると、「何と素晴らしい秋の天気だ」と呟く自分がいた。

昭和の真ただ中に青春時代を過ごした者にとって、何となく懐かしさを感じさせられる作品です。

前回(11月号)では、中国・中央テレビ局(CCTV)によるドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』(舌で味わう中国)を話題にした。この番組は2012年の第1シリーズに始まり、2018年には第3シリーズが制作されている。視聴をお薦めしておきながら、私自身、まだ第3シリーズは観ていなかったの、最近、インターネットで確認した。CCTVのHPにおける解説によると、各50分弱の全8回(集)からなるこの第3シリーズでは、香港、台湾を含む20以上の省・市・自治区の115か所で撮影し、300人以上を取材して、400種以上の料理を紹介している。

全体をかなり注意して観たところ、その中で河南省に関係するのは、2か所であった。まず、第1回のタイトル「器」(うつわではなく、調理器具)の開始約5分半後から、河南省三門峽市陝州が舞台となっており、当地の有名な料理人、薛輝明氏が登場する。陝州は農村地帯であり、薛氏は宴会のために出張して料理を作る。ただし、料理だけでなく、氏の仕事は宴会の前日に出張先の家で土石製の専用のカマド(七孔穿山竈)を造ることから始まる。このカマドは階段状になっており、七つの鍋を同時に火にかけることができる。上から下まで、鍋を置く場所によってその料理に相応しい温度加減が調節できる仕組みである。翌日の宴会ではこのカマドを使った7種の熱菜(温かい料理: 鉄碗条子肉、紅油豆腐、小酥肉、雑烩菜、清燉三珍、高湯海帯、など)が豪華に並ぶ。具体的にどのような料理(味)か、ほとんど名称と画面から想像するしかないのは、何とも残念である。これらに3種の涼菜(冷たい料理)を合わせて、当地の名物「十碗席」となる。

もう一つ、河南省が登場するのは第2回目「香」である(開始約18分後から)。まず、舞台は河南省ではなく、杭州である。杭州には1万人に近い河南省出身のタクシー運転手が働いている。彼らにとって毎日欠かせないのが、「雑感」10月号でも取り上げた「胡辣湯」である。番組では「胡辣湯」の作り方もかなり詳しく紹介されている。味の決め手は胡椒、山椒など20種類以上の香料

の配合だそうである。つづいて場面は、「胡辣湯」の故郷、河南省は周口市西華県逍遥鎮に移り、当地で数年ごとに開催される「胡辣湯コンクール」の盛大な模様が映し出される。人口5万人ほどの逍遥鎮の出身者、2万人以上が全国20以上の省・市で「胡辣湯」の店を開いているとのこと。各地で「胡辣湯」が故郷・河南省への想いをつないでいる。

「胡辣湯」は小喫(軽食)の1つである。小喫と言えば、夜間、食べ物を中心として屋台、露店の集まる「夜市」が連想される。開封市はこの夜市が盛んなことでも全国的に知られる。劉震主編『最開封』(2014年、河南人民出版社)によると、開封の旧市街地では、每晚17か所で夜市が開かれ、その起源は北宋時代(960年-1127年)に遡る。孟元老著『東京夢華録』の卷之二には「州橋夜市」という項目があり、夜市で食べることのできるさまざまな食べ物を列挙した上で「謂之“雜嚼”，直至三更。」(これらは「雜嚼」と呼ばれ、三更[午前零時ごろ]までも商っている)と記述されている(訳・注は入矢義高・梅原郁[1996年平凡社・東洋文庫]による。なお、雜嚼が小喫のことである)。

開封の夜市の中でも最も規模が大きく有名なのは「鼓楼夜市」である。最近のネット記事「全国哪的夜市最好吃? 经过评比, 这10个地方比较有名, 有你家乡吗」(全国のどこの夜市が一番おいしいか? 比べて評価してみると、以下の10か所が比較的有名です。あなたの地元はありますか)(『饞嘴老于』2022年4月5日)でも、重慶洪崖洞、成都錦里、広州上下九步行街、南寧中山路、



鼓楼夜市(2005年9月)

北京簋街、西安回民街、杭州河坊街、青島台東夜市、台北士林夜市とともに開封鼓楼夜市があげられている。

鼓楼夜市には、初めて開封を訪問した2005年の9月9日の夜9:00前に、地元の友人に連れられて早速、見に行った。まず「書店街」を訪れる。ここは、書籍、文房具、工芸品等の店が両側に軒を連ねた、宋代を思わせる通りである。この通りに、小物、日用雑貨、衣類などの露店がずらっと並んでいた。ホーローの器と小さな陶器製の人形を買った。市価(昼間の値段?)と比べてかなり安そうだが、品質はしっかりしている印象であった。

つづいて昼間はバスターミナルの「鼓楼広場」に出てみると、食べ物の屋台が多数出店していた。私の撮った写真はその極一部分にすぎない。友人お薦めのラーメンを食べ、地元名産の「炒紅薯泥」を初めて味わう。後者はサツマイモを潰して炒めたもの。甘くておいしい。

さらに、日本でもよく見かける、こんにゃく風のゼリ一片を炒めた小喫、「炒涼粉」も試す。やや脂っこいが味はよかった。最後は回族の店で「清真料理」の定番、羊肉串を食べ、帰り際にはブドウとザクロを買った。もちろん、友人の値切り交渉を経て。ここは、毎晩0時ごろまでやっているそうだ(北宋時代と同じ!)。夜市の賑わいとは対照的に、近くのDicos(中国資本のファーストフードのチェーン店)やKFCは閑散としていた。

と、ここまでは10数年前の記憶を、当時のメモをもとに振り返った。その後、開封には行っても、夜市をじっくり体験することはできなかった。実は、鼓楼広場周辺は、近年、再開発によって大きな変貌を遂げた。写真は2014年11月9日の鼓楼広場である。前年に完成した巨大な門が見える。また、バス通りを貫く地下商店街も開業した。

一方、旧市街地から離れ、新しく開発された地区には



小宋城(2014年12月)

「東京芸術中心」というホール・文化施設が建設され、「小宋城」という屋内の夜市ができた。写真は直近最後に行った2014年12月8日に撮ったものである。天井には雲なども描かれ、屋外の気分を演出している。この時食べた「齊氏大刀麵」は、手作り極細麵で味は最高だった。この年の5月、(本店のある)蘭考県を視察した習近平国家主席から好評を得たというのもうなずける。

「小宋城」を含めて、夜市は今どうなっているのか。都市化、観光スポット化の進展という時代の波に洗われ、最近では新型コロナ禍の影響を受けていることは間違いない。インターネット等で一定の情報は得られるものの、この目で、ぜひ確かめてみたいと思っている。

今回は最後に訃報である。去る10月21日、元中国共産党河南省委員会書記、徐光春氏が鄭州で亡くなった(享年78歳)。氏が河南省委書記を務めたのは、2004年12月から2009年11月にかけてである。当時は河南省の評判が必ずしも芳しくなく、何とかしようという機運が高まった時期に当たる(「雑感」第1回、2020年4月号を参照されたい)。そうした中で、徐書記は河南省のイメージを高め、中原文化の意義を広めることに多大な貢献をした。

中国内外に住む河南省出身の企業家は、年に一度、「豫商大会」で集結するが、その第1回目が開かれたのも2006年8月である(「豫商大会」については「雑感」第4回、2020年7月号を参照されたい)。徐氏は、2008年1月に設立された「河南省豫商連合会」の名誉会長として「豫商大会」には必ず参加していた。私も過去4回(開催市は安陽、信陽、濮陽、駐馬店)ほど参加し、世界情勢から説き起こして中国が直面する課題と河南省の役割を語る氏の講演を直接聞くことができた。心からご冥福をお祈りする。



再開発後の「鼓楼広場」(2014年11月)

## 中国の面白い神話物語・伝奇物語（20）－古鏡記（3）－

顧 傑

「古鏡記」は、主人公の日記の形式で、鏡との出来ごとを紹介していきます。今月もまた、主人公の奇妙な体験談を紹介していきたいと思います。

~~~~~

秋になって、私は県令（県の首長）になった。県庁の敷地内に樹齢百年と言われるナツメヤシの古木があり、奉行が来るたびにこれを拝まないとすぐに災難に見舞われるとの伝説があった。迷信は絶つべきだと思ったが、部下たちは皆、土下座せんばかりにして、私が古いしきたり通りにすることを望むので、私も最後には屈服した。仕方なく拝むふりをしながらも、心の中では「きっと鬼がいるのだ」と思い、鏡をそっと木に掛けた。

するとその夜 2 時頃、中庭で雷鳴が聞こえたので、起きて見てみると、木の周りに嵐が起り、稲妻が光り、雷鳴が響いていた。夜が明けてから、木の下に大きな蛇を見つけた。体は紫の鱗に覆われ、尾は炎色、頭は緑で白い角があり、額には王という字が刻まれているように見える。いくつもの傷があり、死んでいた。私は鏡を下ろし、部下に命じて蛇を県の入口まで連れて行き焼却した後、再び木の幹を掘り起こしてみた。木の中に穴があり、地中に行くほど大きくなり、大蛇が巻きついていた形跡があった。そして穴を埋めた後、この地には平穏がやって来た。

冬になると、私は河北（中国の地名）地域に出張した。その時この地には、天災や民衆の飢餓、疫病が発生していた。私の配下の河北省の張という役人は、数十人の家族を抱えていたが、全員が病気だった。不憫に思った私は、彼の家を訪ねて、夜、鏡を見てもらうことにした。すると、病人はみるみる元気を取り戻した。聞くと、

「夢の中で、張が月を掲げていて、月光を浴びたら身も心も癒されたようだ」とみんなが同じように答えるのだった。

やがて咳と熱は治まり、その夜にはすべての病人が完治した。鏡が傷つくことはないだろうし、民衆を救うことができると考え、張に命じて、鏡を携えて、各家庭の見回りをさせた。すると夜中、鏡が箱の中で長い間「ヒューヒュー」と言っていたが、やがて止んだ。ちょっと不思議な感じがした張は、翌朝、私のところに訪ねてきた。

「昨夜は、龍の頭と蛇の体を持ち、赤い帽子をかぶり紫の服を着た男の夢を見ました」

張の話では、紫の服の男は鏡の中の神で、名前は子真だと自称した。以前に張を救ったことがあるため繋がりができているようで、事情を話したのだ。其れによると、河北の民が神を怒らせたせいで、神が疫病を降らせたようだ。私が天命に逆らって民を救おうとしたので、鏡はかなり苦勞をしているようだった。そして「あと 1 カ月もすれば疫病はなくなるので、これ以上苦勞させないでほしい…」と苦言を呈してきたようだ。

これは神のお告げだと思い、鏡での治療をやめた。1 カ月後には、その言葉通り、疫病の流行はなくなっていた。

3 年後、弟の王績が仕事をやめて実家に戻ってきた。気の向くままに旅をするつもりのようなのだ。私は王績に「世間は安全と言えない。泥棒も横行



緑毛亀 画像出典: 百度百科

しているから、旅は危険だよ。おまえと私はいつも一緒に、長い間離れていたことはない。今回は遠くまで行くのだろう。かつて、尚子平（古代賢者）は五山を巡り、やがて山に飲まれて行方不明になった。もし、お前がそんなことになったら、私はどうしたら良いかわからない！やめることは出来ないのか！」

と言い、思わず涙ぐんでしまった。

王績は「私の運命は、こんなことでは終わりませんよ。兄上は心の広い方ですから、私の夢を理解してくださるでしょう。孔子は『人は自分の意志を実現する権利を奪われてはならない』とおっしゃいました。人生は百年、あっという間です。好きなことをする喜びを果たせないのは悲しいことです。賢者は人の意志を尊重して自由な行動を許してくれるでしょう」と主張する。

私は仕方なく、旅立ちをゆるした。王績は出発前に言った。「しばしのお別れに際し、もう一つ兄上にお願ひがあります。兄上のその鏡は、普通のものではありません。今回私は、山や峰を越え、雲や霞の中をさまようことになりそうです。私にその大切な鏡を携帯させてくださいませんか」私はそれを聞き、すぐに鏡の箱を取り出して言った。

「お前が望むのなら、私には断る理由などないよ！」王績は、礼を言って鏡を手にとると、どこへ行くとも言わずに、出発して行った。

3年後、王績は戻ってきた。私のところに訪ねてきた時に、鏡も一緒に戻って来た。



白眉猿 画像出典: 語源由来辞典



嵩山 画像出典: 河南嵩山旅行風景区

「この鏡の力は素晴らしい！」と、王績は感激しながら、今までの経緯を話してくれた。

「兄上と別れた後、私はまず嵩山の少室山へ行き、石梁峰より下り、玉潭坪で休息をとりました。日没から夕暮れにかけて、崖の下を歩いていくと、5人は入れる自然石の祠があり、そこで一夜を過ごすことにしました。その夜、恐らく二時頃、二人の男がやって来ました。一人は髭が濃く、体が細く、山公と名乗り、もう一人は顔が広く、白い髭、長い眉毛、黒くて背が低く、毛生と名乗りました。『あなたは誰で、なぜここに住んでいるのですか』と訊かれました。私は『旅行で来ていて、通りすがりの者です』と答えました。その後、3人車座になっていろいろ話しましたが、その言葉はしばしば支離滅裂で意味がほとんどわかりませんでした。おかしいと思い、そっと背中を向け、鞆から鏡を取り出すと、その瞬間、二人の男が叫び声を上げ、地面にひれ伏すと、小男は亀になり、髭男は猿になりました。鏡を掛けて一晩を過ごし、外が明るくなるころには、この二人はすでに死んでいました。よく見ると、緑毛亀と白眉猿でした」

と、弟は何でもないように笑いながら話してくれたが、私はとても驚いた。しかも、こればかりでなく、もっと奇怪なこともあったという……。

~~~~~

今回はここまでにしておきます。不思議な力を持つ鏡のお話「古鏡記」は次でおしまいになります。

お楽しみに。

前回(10月号)からの続きです。1992年に「小学館」から発行された、北京・商務印書館との共同編集による「中日辞典」にある、**日：中**記号が付いた語を取り上げています。この記号は、漢字で対応する日本語がある場合、その意味・用法の違いを補充説明するというものです。中国語学習者にとって役に立ちそうなものをピックアップしています。

**【脱落 tuōluò】** 脱落する。落ちる。抜ける。はげる。牙齿脱落 yáchǐ tuōluò/歯が抜ける。毛发脱落 máofà tuōluò/髪(の毛)が抜ける。窗户上的油漆脱落了 chuānghu shàng de yóuqī tuōluò le/窓のペンキがはげ落ちた。

“脱落”は付着しているものが落ちることをさし、日本語の「脱落：だつらく」が表す人や字句の脱落には用いない。「周りの者たちから落ちこぼれる」脱落には“掉队 diào duì”、「字句が抜け落ちる」脱落には“脱漏 tuōlòu”を用いる。我们对掉队的青年不要歧视，而是要帮助他们 wǒ men duì diào duì de qīngnián bú yào qīshì, ér shì yào bāngzhù tāmen/脱落した青年に対しては、差別視するのではなく彼らを助けなければならない。文章里有脱漏的字句 wénzhāng li yǒu tuōlòu de zìjù/文章の中に脱落した字句がある。

**【下品 xiàpǐn】** 品質が一番悪いもの。等級(ランク)が一番低いもの。

日本語の「下品：げひん」の意味では用いない。「下品」は“下流 xiàliú” “下作 xiàzuo” “粗俗 cū sú”などを用いる。开下流的玩笑 kāi xiàliú de wǎnxiào/下品な冗談を言う。他太下作 tā tài xiàzuo/彼は下品だ。这种场合不适合说这么粗俗的话 zhè zhǒng chǎnghé bú shìhé shuō zhème cū sú de huà/そんな下品な話はこの場にふさわしくない。

日本語の「下品」の反対語は「上品：じょうひん」、そして中国語の“下品”の反対語も“上品 shàngpǐn”です。茅台酒是我国酒中上品 máotáijiǔ shì wǒ guó jiǔ zhōng shàngpǐn/マオタイ酒はわが国の酒の中の高級品である。

**【下水 xiàshuǐ】** 1. 水に入る。水に入れる。造船厂举行新船下水典礼 zàochuán chǎng jǔxíng xīn chuán xià shuǐ diǎnlǐ/造船所で新しい船の進水式を行う。2. 〈喻〉悪事を働く。拖人下水 tuō rén xiàshuǐ/人を悪の道に誘い込む。3. 川を下る。下水船 xiàshuǐchuán/下りの船。

日本語の「下水：げすい」は、汚れた水は“污水 wū

shuǐ”“脏水 zāng shuǐ”、「下水道」は“下水道 xià shuǐ dào”という。

“下水”は“水”を轻声で発音すれば、「(ブタなど食用家畜)の臓物」の意味になるそうです。

**【闲散 xiánsǎn】** 1. 暇でのんびりしている。他慢慢儿来回踱着步子, 好像很闲散的样子 tā mànmanr lái huí duó zhe bù zǐ, hǎo xiàng hěn xiánsǎn de yàng zi/彼はゆっくりと行ったり来たりして、まるで暇でのんびりしているといったふうだ。2. (使わずに)遊ばせてある。遊んでいる。闲散人员 xiánsǎn rényuán/仕事がなくで遊んでいる人員。

“闲散”は人などが暇でのんびりしているさまをいう。日本語の「閑散：かんさん」は“冷清 lěngqing” “清静 qīngjìng”などを用いる。街上很冷清 jiēshàng hěn lěngqing/通りは閑散としていた。

「閑散」はもともと“闲散”と同じ意味でしたが、現在は「人けが無くて、物音が何も聞こえてこない様子」の意に変わってきたとのこと。

**【小心翼翼 xiǎoxīnyìyì】** 〈成〉(言動が)慎重である。注意深い。妈妈小心翼翼地剥掉了女儿手背上的纱布 māma xiǎoxīnyìyì de bāodiào le nǚ er shǒubèi shàng de shābù/お母さんは非常に注意深くそっと娘の手の甲のガーゼをはがした。

“小心翼翼”は日本語の「小心翼翼：しょうしんよくよく」(気が小さくてびくびくしているさま)のような悪いニュアンスはもたない。「小心翼翼」は“战战兢兢 zhànzhàn jīngjīng” “缩头缩脑 suōtóu suōnǎo”などを用いる。战战兢兢地察看上司的脸色 zhànzhàn jīngjīng de chá kàn shàngsī de liǎnsè/小心翼翼として上司の顔をうかがう。

「小心翼翼」は、もともと「慎重である」の意であったものが、「小心：しょうしん」(気が小さい様子)の意に引っぱられて「びくびくする」意に変化したのかもしれない。とりあえず“小心翼翼”は悪いニュアンスをもたないということだけは覚えておいたほうがいいですね。

**【信仰 xìnyǎng】** 信仰する。傾倒する。信仰宗教 xìnyǎng zōngjiào/宗教を信仰する。他早年有民族革命思想, 信仰三民主义 tā zǎonián yǒu mínzú gé mìng sīxiǎng, xìnyǎng sānmín zhǔyì/彼は若いころ民族革命の思想をもち、三民主義に傾倒していた。

日本語の「信仰：しんこう」は宗教について用いるが、



“信仰”は“他信仰马列主义 tā xìnyǎng Mǎ-Liè zhǔyì”（彼はマルクス・レーニン主義を信じている）のように「信奉」の意味があり、宗教だけでなく主義・主張・学説などについても広く用いる。

「信仰」に近いことばに「信心：しんじん」がありますが、中国語の“信心 xìnxīn”は「自信・確信」の意で宗教とは関係がなく、“满怀信心 mǎnhuái xìnxīn”（自信满满）“丧失信心 sàngshī xìnxīn”（自信をなくす）…のように使われるようです。

【**兴奋 xīngfèn**】興奮する。感情が高ぶる。大会散会之后，我兴奋得半夜没睡觉 dàhuì sànhuì zhìhòu, wǒ xīngfènde bànyè méi shuìjiào/大会が終わってから、私は興奮のあまり夜遅くまで眠れなかった。

“兴奋”は日本語の「興奮：こうふん」と同じ意味で用いるほか、「元気づく」「活気づく」などの意味で用いることもできる。听了他的讲话，大为兴奋 tīngle tā de jiǎnghuà, dàwéi xīngfèn/彼の話聞いて、大いに元気づけられた。

“兴”は「興」、「奋”は「奮」の簡体字です。例文にある“大为兴奋 dàwéi xīngfèn”ですが、この日訳が「大いに興奮した」ではなく、「大いに元気づけられた」となるのは予想外ですね。

【**性质 xìngzhì**】性質。たち。柄。土地性质 tǔdì xìngzhì/土地柄。弄清问题的性质 nòngqīng wèntí de xìngzhì/問題の性質をはっきりさせる。

日本語の「性質：せいしつ」は人・事物ともに用いるが、“性质”は事物だけに用い、人の性質には“性格 xìnggé”を用いる。また、“性质”はある事物が他のものと異なる特徴であり、その事物だけがもっている性質については“特性 tèxìng”を用いる。铝的特性是既轻又软 lǚ de tèxìng shì jì qīng yòu ruǎn/アルミニウムの特性は軽くてしかも軟らかいことである。

人か事物かによって言い分けることばの一例です。“特性”も事物だけに使うことばとして紹介されています。“特性”に近い意味で“特点 tèdiǎn” “特征 tèzhēng”がありますが、これらは人・事物ともに使われるようです。

【**休息 xiūxi**】 1. 休息する。休む。休憩する。时间到了，该休息了 shíjiān dào le, gāi xiūxi le/時間です、休みましょう。 2. (仕事)休みである。(仕事を)休む。今天我休息 jīntiān wǒ xiūxi/きょうは休みの日です。

日本語の「休息：きゅうそく」は人について用いられるが、“休息”は一時的に仕事・学習・活動などを停止することであり、人以外に機械や店などについても用いることができる。我们公司每星期休息一天 wǒmen gōngsī měixīngqī xiūxi yìtiān/私たちの会社は毎週1日休みます。让车休息一会儿吧 ràng chē xiūxi yíhuìr ba/

車を少し休ませよう。

“休息”と似たことばに“休憩 xiūqì”がありますが、これは“休息”のかたい言い方であり、話し言葉では使わないようです。そして、日本語の「休憩：きゅうけい」は「(何かをしている途中で一時) 休むこと」で短い時間を指すのに対し、「休息」は時間の長さに制限なく使えるという違いがあります。

【**修缮 xiūshàn**】（建築物を）修繕する。修理する。補修する。修缮工程 xiūshàn gōngchéng/補修工事。这座古寺曾经在一九五二年大规模地修缮一次 zhèzuò gǔsī céngjīng zài yījiǔwǔèr nián dàgǔimó de xiūshàn yíci/この古寺は1952年に一度大修理を行った。

日本語の「修繕：しゅうぜん」は応用範囲が広いが、中国語の“修缮”は建築物についてのみ用いる。車や機械などの修繕は“维修 wéixiū”を用いる。

今回はここまでしておきます。

対になる語を組み合わせた二語の言葉、例えば、“买卖 mǎimài”（“买”は「買」の簡体字、“卖”は「売」に相当する簡体字），“左右 zuǒyòu”など。あるものは日本語と逆の順序、あるものは日本語と同じ順序。何か法則はあるのでしょうか。この疑問に対する一つの見方が「はじめての人の中国語」（中川正之著）という本に載っていました。とても面白い内容でしたので、ちょっと紹介しましょう。

2つ以上の動作を含む文は、その動作を時間順に並べる。中国語には、このような基本パターンがあることをご存じだと思います。対になる語を組み合わせた二語の言葉もそれにならっているようです。日本語の「売買：ばいばい」は「売って買う」の順序ですが、“买卖”は、商売人がある品物を買って来て、それを売るという発生順に並んでいます。また、日本語の「浮沈：ふちん」は「浮かんで沈む」の順序ですが、それに相当する“沉浮 chénfú”（“沉”は「沈」の簡体字）は、あるものが沈んだあと浮き上がるという発生順に並んでいます。

それでは、“左右 zuǒyòu” “好坏 hǎohuài”（善し悪し：“坏”は「壊」に相当する簡体字）など名詞・形容詞の組合せの場合はどうなのでしょう。なんと四声の順に並ぶのだそうです。これで80%は説明できるそうです。入声（にっせい・にっしょう）の漢字は、ほぼ例外なく後ろに来ます。入声とは、漢字を日本語の音読みで読んだときに、フ・ク・ツ・キ・チで終わるものです。例えば、“生死 shēngsǐ”（生と死）は、“生”が第一声、“死”が第三声。“死活 sǐhuó”（死活：しかつ）は、“活”が入声ですから後ろにきます。四声の順番がこんなことに関わっているとは驚きですね。

# 西施と館娃宮(1)

訳：一瀬靖子／大槻一枝

中国古代四大美女の一人とされる“西施”を巡る説話を紹介しようと思います。袁震が収集し、金煦が整理したものを翻訳しました。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

蘇州の靈岩山は、またの名を象背山と言い、大きな象によく似た山で、長い鼻は北に向かって遠くまで伸びている。象の背には美しい“館娃宮”が、あたかも象の背に置いた鞍の上に乗るように建っていた。この宮殿は呉王夫差とその愛妾となった西施の故事に由来する。

二千年余り前、春秋戦国時代のことである。呉と越は覇権を争って抗争を繰り返していた。越王の勾踐は戦いに敗れて捕らえられ、散々に呉王から辱しめを受けた。それに耐えて解放された彼は、屈辱を忘れないよう、苦い肝を舐め(嘗胆)、臣下と一丸となって“十年生聚、十年教訓”(国力を高め、武力の強化を図る)に励んだ。



“呉”と“越”の版図(ウィキペディアより)

更に、越王に勝利した呉王の夫差が、警戒心を忘れ、酒色に溺れ、人々のそしりを受けていることを知り、大夫文種(ぶんしゅ)の“七計滅呉”(七つの計を以て呉を倒す計画)の策を取り入れた。その中の一つが“美人の計”であった。越王は国中の数千の美女の中から賢くて美しい、そして愛国心の強い女性を選んで呉王に献上しようと考えた。西施は、

越の国の農村(現在の浙江省紹興市諸暨市)の洗濯娘であったが、天女のように非の打ち所がない美しい容姿を持ち、嫦娥にも劣らず、牡丹の花にも比べ称される美女であった。

勾踐は、この美しい女性を選び出し、范蠡(はんらい)にその教育を委ねた。西施は誰にもまして賢く、教えられた事は漏らさず身に付け、三年後には琴、棋、書、画、管弦、歌の六芸すべてに秀でた傾国、傾城の女性となった。范蠡はまた少しずつ国家の興亡や彼女に負わせられる神聖な使命について語った。西施は透明で美しいガラスの器のように、一旦、火を灯すとたちまち輝き、他人を感服させ、范蠡さえも何時とは知らず彼女に恋心を抱くまでになった。

呉王は献上された西施に夢中になり、彼女のために、風景の美しい象山を選んで“館娃宮”を建てた。伝えるところによれば、越王は、呉への貢物として多くの神木を姑蘇台“館娃宮”の建造のために、今の浙江から運河を使って蘇州まで運んだという。“積木三年、木塞于浣”(木材がどんどん運ばれて、山の下は木材で塞がれた)。後にこれら川を塞いだ木材を使って多くの家が建てられ町や村ができた。これが現在の靈岩山麓の呉県・木浣鎮であるという。

“館娃宮”は月の世界を実現しようと、五年の月日をかけて造られた。珠玉を嵌め込んだ内装は、特にきらびやかで、外には花園も作られ、四季を問わず花が咲き誇った。象背山の頂上にはステージが造られ、月や星が輝き静風がそよぐ中、呉王は西施を伴ってここで酒を酌み交わし、琴を奏でた。その先は長い廊下—響履廊—になっていた。“響履廊”の下は空洞になっていて、多くの甕が並んでいた。呉王は甕の上に板を敷き、その上を官女らに木靴を履かせ踊らせたという。官女のスカートに取り付けられた鈴がリンリンと鳴り、木靴で踏むたびに廊下はカランコロンと妙なる音楽を



洗濯をする“西施”(ウイキペディアより)

響かせて、呉王を喜ばせた。呉王はあらゆる手を使って西施の歡心を得ようとした。西施も機嫌が良いと自分も木靴を履いて踊り、疲れると宮殿の前の池で水浴びをした。宮女たちの紅や白粉の濃厚な香りが漂い、池は“香水溪”あるいは“胭脂塘”と呼ばれた。池には蓮の花が植えられ、呉王は遊覧船で西施と“泛舟採蓮”(船を浮かべて蓮を摘む)を楽しんだ。後世の人々はこれを呉王の“山頂行舟”(山の上で船を漕ぐ)と称して、隋・煬帝の“陸地行舟”と同様、彼等が酒色に溺れ、国政をないがしろにしたことに厳しい目を向けている。

西施は、呉の国に来てからひたすら故国を偲び、心中悶々としていた。西施の寂しげな様子に呉王は気が気でなく、「私の愛する妃よ。そなたは山海の珍味を食し、金襴緞子の衣を纏っている。欲しいものは何でも手に入る。まだ何か不服があるのか？空の月を取って来てそちに与えることは出来ないが、話してくれ、何か気に染まないことがあるのか？」。

西施は、「私は月を見るためにわざわざ頭を上げたくはありません。貴方が月を持って来てくだされば、私が頭を上げないでも済むではありません

か？」。呉王はこれを聞いて驚き、苦笑して頭を掻いた。「冗談にも程があるぞ・・・」。この時、西施はふとあることを思いついた。呉王にもう一つの池を作らせ、呉王と共にそこで月を觀賞しようと唆したのである。

月が明るく清風そよぐ夜、池の表は静かに波打っていた。西施は両手で池の水を掬った。月が手の中に掬われた。彼女は呉王に、「ご覧ください。私は手の中で月と戯れることができます。」呉王は西施の賢さに感服し、西施は満足げににっこり微笑んだ。その後、この池は“玩月池”と呼ばれるようになった。

ある時、呉王は避暑のため西施を伴って館娃宮に赴いた。中腹の石洞まで来ると呉王は得意げに、「この石洞に越王勾踐を監禁したことがある。その時、彼は“髪は茫々”で“裸足(はだし)”の馬丁だった」。これを聞いた西施は、苦しい胸の内が顔に表れることを恐れ、笑いでごまかした。呉王がすかさず、「愛する妃よ、なぜ笑うのだ。私が大袈裟に話していると思っているのではあるまいな」。

西施は素早く話を逸らした。「この石洞は本当に涼しいですね。うちへ帰ったようで嬉しいわ」。

呉王はこれを聞き、「世の中で私の愛する妃が一番美しく、そなたの名は最も耳に心地よい。この洞を“西施洞”と名付けよう」。

伝えられるところによれば、西施が館娃宮で笑ったのは二回半だけだったという。最初は玩月池、もう一回は西施洞、残りの半回は箭香涇せんこうけいにおいてである。 つづく



諸暨市にある「西施故郷観光区」(ウイキペディアより)

## 二胡が取り持つ 首里城復興支援音楽会

佐藤紀子

2022年11月6日、「日本二胡振興会」は、沖縄アイム・ユニバース てだこホール(浦添市てだこホール)で、日中国交正常化50周年を記念し、同時に首里城復興を支援するための「琉球の風」と題する音楽会を開催しました。

音楽会は、全国各地から集まった二胡奏者と二胡愛好家200人近くによる大合奏で幕を開けました。メンバーの最年少は5~6歳、最年長は明らかにされませんでした。多分70~80歳位の方までバラエティーに富んでいましたが、中心はやはり青壮年でした。演奏曲目は、「日本二胡振興会」の会長・武楽群先生が作曲された《琉球の風 花— 全ての人の心に花を》で、気持ちを揃えた200人近くの合奏は感動的でした。

武楽群先生は、瀋陽音楽院を卒業、1988年に武蔵野美術大学留学のため来日されました。日本では多くの二胡関連の教科書を出版され、同時に、日本歌曲の楽譜から二胡専用の楽譜を起こす作業に尽力されました。2011年3月11日の東日本大震災後は、被災地区の廃材を利用してヴァイオリン、ビオラ、チェロなどの弦楽器を作って、それらを使用した音楽会を開いたり、大津波のなか一本だけ生き残った「奇跡の一本松」の絵を描いたりしておられます。先生は常に芸術を仲立ちとした

日中友好の活動に力を注がれています。

演奏会では、人々に親しまれている《花》の作曲家である喜納昌吉氏がご自身で《花》を熱唱されました。「すべての武器を楽器に、全ての基地を花園に、全ての人の心に花を」という心の叫びは、聞く人の心に染み渡らせる、素晴らしい歌声でした。私は一人の二胡愛好者としてこの音楽会に参加出来たことを大変嬉しく思います。紛争がなくなる日が一日も早く到来し、人々の心が平和を愛する気持ちと、美しい花々で満たされるようにと心から願います。

演奏会では、最高の二胡演奏家たちが代わる代わるの登場し、素晴らしい演奏を披露しました。その内の主な出演者は次のような人々でした。

二胡奏者霍曉君は「女子十二楽坊」の元メンバーです。中国音楽教育の最高峰である中国音楽学



院の卒業生で、その演奏技能ばかりでなく美貌も超一流と言われる、素晴らしい奏者です。彼女は、なじみのヴァイオリン曲、ピアノ曲を二胡で演奏し、満場の喝さいを浴びていました。

張連生のユーモラスな演奏とトークに聴衆は引き付けられ、歓声と拍手の渦が沸き起こりました。

日本人の二胡奏者鳴尾牧子は、北京中央音楽学院に留学して二胡を習い、帰国してからは様々なコンクールで4回も入賞を果たしました。私は、彼女の中国文化に対する深い理解と、その上に組み立てられた独特な雰囲気を持つ演奏に深い感銘を受けました。

音楽会は、中国の著名な作曲家呂遠が喜納昌吉氏のために創作した《アジアの花》の演奏で幕を閉じました。会の終了が告げられても、聴衆の拍手と歓声は鳴りやまず、音楽が人々を楽しませる事実を目撃し感動しました。このような演奏会を企画して下さった「日本二胡振興会」の会長武楽群先生に、また首里城修復支援のために演奏して下さった音楽家の皆さんに心より感謝したいと思います。

音楽会終了後、私は首里城へ行って見ました。ご存知の通り首里城は2019年10月31日に火災に遭遇しました。焼け跡に残った木材や瓦を見て



残念な思いに駆られます。しかし残った壁や塀からでも、在りし日の風格が感じられ、11時間にも亘る大きな火災の後でも、首里城はその威厳を保っているように感じました。

首里城に到着した途端、私は何か懐かしい感覚に捉われました。その雰囲気、どこか私の記憶の中の泰山の風景と似ていたのです。沖縄で、私は故郷に帰ったような気がしました。至る所で文化融合の気配を感じましたが、同時に、其の融合の中に変化する文化も感じ取れました。

私は首里城のシーサーの石像がとても好きです。シーサーは中国経由で沖縄に入って来た獅子像だそうですね。皆さまは中国の獅子像と沖縄のシーサーとどちらがお好きですか？ 私はシーサーが好きです。なぜなら、シーサーは可愛い中に威厳がありますから。

首里城や首里城のシーサーにはぜひまた会いに行きたいです。それまで、お名残り惜しいけれど、さようなら！ 沖縄のシーサーたち！！



## 第24回 町田発国際ボランティア祭

24回を数える2022年夢広場が、町田駅近くの“ぼっぼ町田”で開催されました。昨年はコロナ禍のため規模を縮小して行われましたが、今年も舞台は設置せず、直接敷いたレッドカーペット上で一人ずつの踊りやヴァイオリン演奏が行われました。

11月3日は、「晴れの特異日」と予てから言われていますが、毎年この日に開催される夢広場、今年も雲一つない青空の下、気温も最高気温が24度と少し汗ばむくらいの良い天気の中で行われました。わんりいのメンバーは、朝8時半に会場に集まり約一時間かけて主に会員から提供された次のような展示物に値札を付けて並べました。例年通りのラオスの山の民・モン族の伝統的な刺繍による大小のポーチやブックカバーのほか、会員の佐藤紀子さんがデザインしたトートバック、趙迪さんが考案した漢詩が刷り込まれたコースター・箸入れ・ランチョンマットなど、須崎孝子さんが中国で生活している時に購入した思い出の品々、と今年のわんりいは多彩な品揃えとなりました。

午前10時、開会宣言で幕あけです。司会進行役は、ミャンマー出身のマティダさんとグーグーさんで、息のあったやりとりで会場を盛り上げていました。



出店している9団体の紹介の後、西東京朝鮮第二幼稚中級学校の小学部6年生の女性徒3人が一人ずつ朝鮮の伝統的な踊りを披露しました。12時から夢広場の実行委員長山口美知子さんが、今年の夢広場のスローガン〈今こそ手をつないでこの星に平和を！〉と謳った「夢広場宣言」を読み上げた後、今年の特別企画に移りました。今年ハスガナミ楽器店の推薦による、澤田智恵さんのヴァイオリン演奏です。ロシアとウクライナの曲が演奏され、トークを交えた素晴らしい一時間でした。澤田さんはロシアの国立グネーシン音楽院に留学され、学士・修士を取得された方です。会場がコンサートホールのような環境とはいかず、いくぶんざわついた中でしたが、美しい音色に皆さん満足されたのではないのでしょうか。その後、山下さんのケーナ（笛）の演奏があり、午後3時にお開きとなりました。



## 【新年会のお知らせ】

2022年も残す処あとひと月！ わんりいも、毎年12月号で、新年会のご案内を掲載して、参加希望者を募って来ました。

昨年2021年のコロナは、何回かの波を経て、11月には減少の兆しが見え始めたので、わんりいは2月初めに新年会を予定して、皆様にご案内しました。状況によっては、間際での中止をご承諾頂いた上での募集でしたが、十数名の方々からお申し込みを頂きました。ところが12月下旬から感染者が徐々に増え始め、行政から行動制限が出され、残念ながら2022年の新年会は取り止めとなりました。

現在、2023年の新年会の計画を練っているところですが、コロナ情勢は昨年と同じような状況です。しかも、専門家の分析によると流行のピークは1月中旬とのことです。

実は、11月初め、コロナの流行がかなり落ち着いていた頃、会場の抽選があり、わんりいが申し込んだ1月22日は当選しました。それで現時点では、2023年わんりい新年会は1月22日を予定しています。因みに、この日は2023年の春節当日に当たります。

専門家の予測が的中すると、実施は不可能なようですが、日時の変更は無理です。今から諦めるのは残念なので、もう少し様子を見たいと思います。結果として、昨年同様、間際の中止を折り込んだ上で参加者を募集することになります。事情をお察しのうへご応募いただきますようお願い申し上げます。

### ~~~~~ 2023年わんりい新年会

日時：2023年1月22日 11:00～

場所：川崎市麻生市民館

小田急線新百合ヶ丘 徒歩3分

会費：1500円

内容：恒例の涮羊肉（羊肉のシャブシャブ）

ビンゴ、おしゃべり



## 【中国の笑い話-52】

### 第182話 資産家の宴会

ケチでそっかしい金持ちがいました。

ある日、友人から一通の招待状を貰いました。封を切り、中の書状を半分出して覗くと日付の「初」の後に横棒が見えたので、てっきり宴会の日付を「初一（1日）」と思い、数日前から食べ物や水分を控えて、宴会で思う存分飲み食い出来るように準備を始めました。

1日になって会場に行きますが誰も来ないので、心配になり、招待状をもう少し引き出してみると「初二」と見えました。「なんだ明日だったのか」ともう一日食事を我慢して過ごしました。次の日も誰も来ないので、書状を全部取り出してみると、そこには「初三（3日）」と書いてありました。宴会は3日だったのです。その時にはこの金持ちは、もう餓死寸前でした。

## 満伯画伯の講演会のご案内

### 演題：水墨画における〈気韻生動〉とは何か？

●日時：12月19日(月) 13:00～15:00

●場所：中国文化センター（要申込）

港区虎ノ門3-5-1 37森ビル1階

会場とオンラインにて同時開催

ミーティングID:655 161 6575

●問い合わせ先：中国文化センター

03-6402-8168 陳麗さん

### ◇満伯画伯の漢訳俳句◇

うまさうな

雪がふはりふわりかな

小林一茶

rù kǒu ruò měi wèi  
入口若美味

xuě huā piàn piàn mián  
雪花片片绵

【わんりいの催し】  
皆様のご参加を歓迎します

♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体のを抜いて気持ちよく発声しよう！  
声は健康のバロメーター！！

\*動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：まちだ中央公民館 美術工芸室
- 日時：12月20日（火）10：00～11：30  
1月24日（火）10：00～11：30
- 講師：Emme [エメ]（歌手）
- 会費：1,500円（講師謝礼・会場費）
- 定員：15名（原則として）
- 申込：☎042-735-7187（鈴木）

~~~~~

\*\*\* 中国語で読む 漢詩の会 \*\*\*

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

- 会場：まちだ中央公民館 視聴覚室
- 日時：12月 は休講になります  
1月8日（日）10：00～11：30
- 講師：植田渥雄先生  
桜美林大学名誉教授
- 会費：1,500円（会場費・講師謝礼）
- 定員：20名（原則として）
- 申込：☎090-1425-0472（寺西）  
Email:ukiuki65jpp@yahoo.co.jp  
(有為楠)



■11月・12月定例会 代表宅

- ▼12月 9日（金）10：00～
- ▼1月 9日（祝）13：45～

■‘わんりい’ 発送 三輪センター

- ▼1月号 12月28日（水）
- ▼2月 休 刊

☆☆編集後記☆☆

2022年最後の一か月が始まります。振り返れば、2022年はコロナ一色でした。2021年も、コロナが世界中を席卷しましたが、それでも日本では、多くの人々の努力で、コロナ禍の中でのオリンピックを開催し、成功裏に幕を閉じました。

それだけ見れば、2021年は日本が頑張った年といえるのですが、今頃になって、そのオリンピックに纏わる、どす黒い事実が次々と明るみに出て、2022年はコロナ以上に、オリンピックの悪い面が印象に残った一年になりました。

2022年は未だあと一か月ありますが、その間に、今までの暗い気持ちを吹き払ってくれるようなことが起こるでしょうか。若しかしたら、サッカーで嬉しいニュースを期待できるかもしれませんね。

～・～・～・～・～・～

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します  
年会費：1800円、入会金なし

郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい

10月以降の入会は、当年度会費1000円

■問合せ：044-986-4195（寺西）

‘わんりい’ 279号の主な目次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 寺子屋・四字成語（58）『狗尾续貂』……………    | 2  |
| 「日译诗词」（28）辛棄疾の〈詞〉醜奴兒……     | 3  |
| 「中原」雑感（27）「食」の思い出……………     | 4  |
| 中国の面白い神話伝奇物語(20)「古鏡記(3)」…… | 6  |
| 「中日辞典からの意外な発見」（13）……………    | 8  |
| 「西施と館娃宮」（1）……………           | 10 |
| 「首里城復興支援音楽会」……………          | 12 |
| みんなの広場……………                | 14 |
| ‘わんりい’の催し・お知らせ……………        | 16 |